

議会だより

No. 133

令和8年8月1日発行
(2026年)



もろやま

MOROYAMA ASSEMBLY NEWS

表紙の作品

第8回観光協会観光フォトグランプリより

題名『ふれ太鼓』

撮影場所：歴史民俗資料館

撮影者：小林 真佐雄さん

コメント「2025/5/11 歴史民俗資料館まつりの午後からのイベント開始のふれ太鼓的一幕。顔が担ぎ棒で隠れないように？」

2～3P

6月議会ではこんなことが決まりました

4P

町からの協議事項（全員協議会）

5～11P

一般質問13名が登壇

発行／毛呂山町議会 編集／毛呂山町議会だより編集委員会

〒350 - 0493 埼玉県入間郡毛呂山町中央2丁目1番地

☎049-295-2112

バックナンバーはこちらです⇒



議会の声を動画で届けます!!

YouTube 配信はコチラから ⇒



○議会だよりは議員の自主編集により発行しています。

6月 定例会

令和8年6月定例会は5月29日から6月4日までの7日間の会期で開催されました。今定例会に提案された案件は、専決処分の承認3件、条例の一部改正2件、補正予算1件、契約の締結1件、報告2件、合計9件が上程され慎重なる審議をいたしました。また、一般質問は13名の議員が登壇し活発な質問が展開されました。

補正予算

令和8年度一般会計 総額1,528万円を追加可決!!

主な内容と質疑

今回の補正予算では、給食センターの老朽化に伴う空調設備の更新費用を計上しました。また、本町でも防犯対策への町民ニーズが高まっていることから、防犯対策補助金を増額しました。さらに、全国的に被害が拡大しているクビアカツヤカミキリへの対策予算を新たに追加しました。

学校給食センター空調設備 交換工事

1089万円

Q

学校給食センター空調設備交換工事について、今後、小学校が統合され、毛呂山中学校区と川角中学校区の2拠点になることを考えれば輸送コストや施設維持コスト等を考慮し自校方式にしてもよいように考える。コスト比較を行ったか。

A

比較検討したことはない。

Q

自校方式の方が、年間支出が小さくなる可能性がある。給食センターの民間活用や他自治体との広域化などを本格的に検討すべき時期ではないか。

A

二つの方式を他町と協議しながら検討する。

住宅用防犯対策補助金

300万円

Q

防犯対策補助金が12月臨時議会時の150万円から300万円になっているが積算根拠を伺う。

A

補助上限1万5千円の200件分となっている。

クビアカツヤカミキリ対策費用

45万6千円

Q

クビアカツヤカミキリ対策費用45万6千円の積算根拠を伺う。

A

駆除用スプレー缶200本分。

Q

越生町の取り組みはどうか。

A

クビアカツヤカミキリの捕殺奨励制度がある。駆除スプレー缶の配布や10匹ごとに500円の商品券を配布など。

Q

なぜ当初予算ではなく補正にしたのかその理由は。

A

当初予算の段階ではクビアカツヤカミキリの対応についてまだ検討ができていなかった。

Q

成虫の拡散防止のために、羽化する前の5月下旬までに対策をすべきではないか。

A

5月下旬までに対策が必要と考えている。



メス



オス

早めの対策が
拡散を防ぐ

専決処分

国民健康保険税条例等の一部改正 承認!! 賛成 11 反対 2

主な内容と質疑

軽減判定所得の基準額を見直すとともに、基礎課税額の課税限度額を66万円から67万円に引上げ、子ども・子育て支援納付金課税額の課税限度額を3万円とする。

また、子ども・子育て支援納付金課税額について、18歳未満被保険者の均等割を全額軽減する規定を追加する。

Q

3月議会で税率改正が可決され、子ども・子育て支援納付金分もすでに導入された。なぜ専決処分が行われ、4月1日から施行されたのか。

A

3月議会後、さらに一部改正する法律が公布され4月1日から改正内容を速やかに施行する必要があるため、専決処分を行った。

討論 ～私は反対します～

岡野 勉 議員

町民生活に身近な地方自治体が物価高騰に抗い、町民生活を守る気概が求められている。国保は医療保険制度であり、「子ども子育て支援制度」の上乗せ徴収は目的外利用である。国民負担増を招く上に、少子化対策としても効果が疑わしい。うなぎのぼりの防衛費増額と社会保障費へのしわ寄せにも苦言を呈し、反対する。

討論の詳細はこちら



川角駅周辺がついに変わります!!

(川角駅学園口駅前広場等整備工事) 請負金額 2億4,280万円

※ 万円未満切り捨て

毛呂山町東の玄関口である川角駅。時間帯によっては一度に多くの近隣3大学の学生などが通学の為に利用され、非常に危険な状況が数十年と続いており、町に幾度となく改善の地区要望書が提出されておりました。

長年の懸案事項だった事業計画においては、当初、橋上駅舎の計画から始まり、協議を重ねた後、南口に改札口を開設することに変更され、また令和4年12月には川角駅地区整備協議会より整備方針などが盛り込まれた結果報告書が答申され、紆余曲折しながらようやく用地買収も終え、工事着手に至る事となりました。

請負業者 株式会社 島村工業

工期 令和9年3月31日まで

主 な 質 疑



危険だった川角駅周辺



環境が改善される学園口側



もろ丸くん

- A** 事業の内容は説明会等により理解は得られていると思う。動線は今後も警察の指導を仰ぎながら進める。
- Q** 住民の了解は得られているのか。
- A** 警察との協議の中で歩行者が分散するので片側に集約し動線を確保した方が良いと指摘があった。
- Q** アクセス道が片側歩道で進められるが、できれば両側歩道の方が良いと思う。その点は検討されたか何う。
- A** 現状450ミリではあるが、工事を進めるにあたりより大きなものに変更できるか再度検討をしていく。
- Q** 排水管内径が450ミリでは小さいと思うが。
- A** 近隣の雨水排水対策も検討すべきと思うが如何か。
- Q** 来年度の排水路整備工事後に効果を検証し検討していく。

●議案の審議結果（6月定例会）

○は賛成 ×は反対 討は討論 議は議長

議案			議員名														中村 奨平	佐島 啓晋	小野 浩	下田 泰章	澤田 蔵	佐藤 秀樹	荒木 かおる	千葉 三津子	岡野 勉	小峰 明雄	高橋 達夫	長瀬 衛	堀江 快治	平野 隆	審議結果
専決 処分	条例 改正	税条例、都市計画税条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	承認					
		国民健康保険税条例等	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	討	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	承認						
一部 改正	税条例、印鑑条例		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	原案可決						
補正 予算	一般会計（第1号）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	原案可決						
契約	川角駅学園口駅前広場等整備工事 請負契約		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	原案可決						

全員協議会において今後の事業計画が話し合われました！

川角中学校区小中一貫校整備計画の見直し 令和13年度開校へ

町は、小中一貫校整備事業調査設計等業務委託の結果を受け、物価高騰による建設費の上昇を踏まえ「増築校舎の規模」、「既存校舎の活用の方法」「学童保育所の在り方」等、川角中学校区の施設一体型小中一貫校整備計画について再検討しました。

増築校舎については、小中一貫校整備事業調査設計業務で、多目的スペースやワークスペースを備え、異学年交流や多様な学習形態に対応できる案を採用したいとの説明がありました。

また、学童保育所については、少子化に伴い利用児童数の減少が見込まれることから新設を取りやめ、既存の光山学童保育所を一部改修することで保育スペースを拡充し、川角学童保育所と光山学童保育所を統合する方針が示されました。

これらの見直しにより、事業費は当初計画から約1億1700万円の削減が見込まれるとの説明がありました。

一方で、小学校用グラウンド整備に伴う敷地拡張のため、農業振興地域からの除外や開発協議などの手続きが必要となります。このため、開校時期は当初予定の令和11年度から令和13年度へ変更される見込みです。

旭台地区雨水排水対策事業 令和9年2月完成目指す



旭台地区の冠水被害を解消します

町は大雨による浸水被害の軽減を目的として、旭台地区雨水排水対策事業を進めています。

令和5年度に現況調査、令和6年度に概略設計、令和7年度に詳細設計と地質調査を実施したとの報告をうけました。

令和8年度は、7月に道路側溝新設工事（約3840万円）と調整池新設工事（約3650万円）の一般競争入札を実施し、令和9年2月末の完成を目指し、雨水排水機能の向上を図り、地域の浸水対策を進めていくとの説明がありました。

老朽化するし尿処理施設の現状と今後の対策を協議しました

坂戸地区衛生センターは、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、越生町、鳩山町のし尿・浄化槽汚泥を処理する施設として運営されています。

しかし、供用開始から40年以上が経過し、設備の老朽化が進む一方、下水道整備の進展により搬入量はピーク時の約35%まで減少しています。

こうした状況を受け、構成5市町や関係機関による検討会議では、施設更新や新たなし尿受入施設の整備など10案を比較検討しました。その結果、経済性や実現性を総合的に判断し、坂戸・鶴ヶ島下水道組合が管理する下水処理施設にし尿受入施設を整備する案などが選定されました。

これらの案では、維持管理費についても他の案と比較して低く抑えられる試算となっています。

今後は、周辺住民への説明や理解の促進、既存施設での処理能力の検証、関係自治体との協議などを進める必要があります。事業化には計画変更や設計・工事期間を含め7～10年程度を要する見込みであり、将来の財政負担や安定したし尿処理体制の確保について、引き続き注視してまいります。

一般質問

町政を問う！ ～13名が登壇～

- 介護予防
- 教育・子育て環境の充実
- 環境保全
- 廃食油回収事業
- 公用車
- マイナンバーカード

小峰 明雄

- 苦林浄水場設備棟の更新問題

長瀬 衛

- 小学校統廃合
- 組織運営におけるガバナンス

中村 奨平

- もろバスの運営の改善
- 居住者のいるごみ屋敷対策

佐島 啓晋

- 町の観光政策
- 街灯設置の重要性
- RSウイルスワクチン

千葉三津子

- 交通安全対策
- 外国人への日本語教育

荒木かおる

- 学校統廃合
- もろバスのベンチ
- デマンドタクシー
- 国指定史跡・鎌倉街道上道

小野 浩

- さくらまつり事業と旧車イベントとの関連性
- 消防団員（水防団員）の確保
- 町の観光計画とは

下田 泰章

- 中東情勢による町への影響は
- 中東情勢の悪化による町内の企業への影響は

高橋 達夫

- 学校統廃合

岡野 勉

- 今後の町政運営

佐藤 秀樹

- 観光地再生

澤田 蔵

- 町を取巻く諸課題
- もろやま創成舎

堀江 快治

※一般質問の本文は、主な質問と答弁を本人が編集しています。
文字数の関係上、簡略化しています。詳細はYouTubeへ。



ゆずっこ元気体操を通じた地域づくりは 介護予防等、一定の成果をあげた



小峰 明雄

問 ゆずっこ元気体操を通じた地域づくりの現状と課題は。

答 介護予防に加え、地域での交流や見守りにつながる通いの場として重要な取り組みである。

問 実施について検討。

答 児童生徒の朝食喫食率の現状と今後の向上への取り組みは。

問 今後、内容を精査し手引き等をホームページに掲載する。

答 てんぶら油などの廃食油の回収事業、質問後の取り組みは。事業化に向け調査・検討中。

問 20年を超過した公用車の計画的な更新は。

答 令和12年度末を目標期間として更新を進める。

問 台数の圧縮に向けた、具体的な取り組みは。

答 合理的な配置に見直ししていく必要がある。

問 電子申請など行政のデジタル化を支える基盤として活用が進んでいる。

答 新たな地域コミュニティの形成の推進を切望する。



新たな地域コミュニティの形成の推進を切望する

苦林浄水場更新の根拠は失われている

答 県と調整し、費用対効果等を考えて進める



長瀬 衛

問 独善的で道理の通らない裁量権に依存した数々の予算計画に対し、「入りを量りて出を制す」の基本的精神に立ち戻るべきと指摘してきた。

答 苦林浄水場設備棟の20億円建替え計画に対して、既に約1億円の設計委託費を支出しているが、「財源が見つからず更新工事の代替案や県水受水の可否について県企業局に問い合わせるので更新計画は白紙状態」というズサン極まりない実態である。

さらに、今後の給水量並びに料金収入等を基に基本方針を示した水道事業経営戦略策定や上水道審議会に諮問する前に設計が終わっている。ここに至るまでの最高責任者は誰か。

答 管理者は町長である。

問 町施設は公共施設等総合管理計画や個別施設計画により再配置基本方針を定めている。

そこでは「予防保全型の計画的維持管理を行う」「施設の更新に当たっては他公共施設との連携が可能なサービスを有する施設について、必要性等を踏まえ、県等の施設の活用を検討する」と定めている。

県内自治体の県水受水状況は、

答 現在、県内57自治体が県水を受水している。

問 隣県の茨城県五霞町が令和9年度から埼玉県水を100%購入した上、浄水場を廃止する。町の水道会計は、令和14年度に単年度赤字の見通しであり、参考にするべきだ。

答 これまで審議会に話しながら進めてきた。

県水受水については県の了解が得られるのか調査しており、県と調整しながら、費用対効果なども考えて更新計画を進める。



苦林浄水場設備棟、20億円の更新計画〔内、仮設費に6.5億円〕



川角小・光山小統合に関する最新の見解は 開校を令和13年度に変更



中村 奨平

問 当初、令和8年度に統合予定だったものが、令和11年度に延期、更に延期することとで児童保護者は振り回されている。更なる物価高の波が押し寄せて

答 おり、費用が想定以上に嵩むことが予想され、入札不調なども考えられる。これ以上遅れないように代替案も用意するなど、あらゆる取組をしてほしいがいかがか。

問 遅れることはできない。議会での承認も必要。教育当局としっかりと進めていく。

答 校舎老朽化の詳細を伺う。給排水管の漏れや詰まり、

受電変設備などの故障等、個別修繕ができるものは対策をした。一方、雨漏りや漏電など原因特定が困難な案件が年々増加。特に校舎の雨漏りや屋上からの雨水配管の漏水、光山小学校では給食用エレベーターが故障し、その更新には約5千万円の見積など様々な不具合が日々発生しており、大規模改修が必要。

問 本格的に学校跡地利用を検討しなければならない。人口減少社会において公共施設を増やすべきではなく、税収・雇用増など地域が活性化するような民間活用を第一に考えるべきでは。

答 民間による利活用も今後検討項目としていく。

問 総務省が公表する第三セクターに関する指針を我が町でも定めるべきでは。

答 定めるまでもなく、指針に沿った対応をすべき。

問 出資者各々の責任で投資しており、出向者の人件費を全額負担するなど損失補填のような事をすべきではない。更なるガバナンス強化をすべきでは。

答 誤解が生まれないよう徹底していく。出向する職員もある時には引き戻す。

子どもは更に減少、しかし統合は延期

- ・当初、令和8年度に統合した学校（川角小+光山小）が開校するはずだった。
⇒令和11年度に変更⇒さらに令和13年度に延期
- ・川角小学校でも既に単学級が発生しており、令和13年度には両校の児童数を合計しても300人を下回る見込み。
- ・町は川角小学校を大規模改修した場合、約32億円かかると試算。
- ・光山小学校を大規模改修した場合、約18億円と試算。
- ・新築（校舎を川角中学校敷地内に増築）にした場合、約17億円と試算。
- ・築50年を経過している建物に多額の費用を掛けるよりも新築にした方が経済的である。

築60年神戸大学では漏水により大規模な天井崩落事故発生

もろバスの鎌北湖行きはデマンド式で！

答 住民の意向確認と関係機関との協議が必要



佐島 啓晋

問 もろバスが5台になり1年が経過した。改善案として、武州長瀬駅をハブとして目白台方面に1便、大類・西大久保地区に1便、毛呂山台・学園台に1

便、役場・埼玉医科大学・国際医療センターに2便などタスクを短くした循環方式の方が利便性が高いのではないかな。

答 確かにタスクが短くなると、もろバス自体の運行頻度の増加等のメリットはあるが半面、町全域をカバーするためには多くの循環ルートを設定する必要がある。過去からのニーズを考慮して車両5台を最大活用した形

問 鎌北湖・滝ノ入方面にはデマンド式タクシーを活用した方が良いのではないかな。導入にあたっての障壁はあるのかな。

答 デマンド式を導入する場合には、運行事業者と調整後に、毛呂山町地域公共交通活性化協議会において、現在の事業計画の変更と事業計画について承認される必要がある。そして、並行して必要なオペレーター等の準備や運行事業者との変更契約が必要となる。住民の意向確認や関係機関との協議を経て慎重に決定していく。

ごみ屋敷対策

問 居住者のいる管理不全家屋いわゆるごみ屋敷について対策はあるのかな。

答 ごみ屋敷については、悪臭、害虫の発生、道路上へのみ出し、火災の危険など様々な問題として苦情がある。居住者や管理者に近隣住民が迷惑していることを伝え改善をお願いしている。行政が所有物を勝手に処分することは、人権や所有権の侵害に繋がりがかねない。慎重に居住者との信頼関係を構築し対応する。



観光行政は待ちの姿勢だけでは現状は変わらない 答 計画的、戦略的に推進していく



千葉三津子

問 現在の観光行政の大きな課題は計画性に欠けていることだ。町に存在する観光資源をどのように活用し、外から人を呼び込み経済効果を出していくかが重

要だ。行政として待ちの姿勢だけでは現状は変わらない。今後の方針と対応を伺う。

答 官民連携を中心とした計画的かつ戦略的な観光振興に努め、観光行政を推進していく。

問 町の今後の観光計画を伺う。

答 観光施策の推進に向け観光事業を進めているが、今後、官民連携を尊重し地域の実情を反映した計画の策定を進めていく。

問 ここ数年、新規事業や仕掛けなどが、出ていない状況だ。特に、大きな観光名所である鎌北湖について、今後どのような展開を考えているのか伺う。

答 鎌北湖周辺の美化や整備を進め鎌北湖地区周辺のネットワーク化や、季節ごとの観光コースを提案し、民間企業による観光化も視野に入れて検討する。

問 全国的に空き巣や強盗などの凶悪犯罪が増加している。そのような中、町民の方から「本町に入ると暗く感じる」とよく聞く。誰もが安心して暮らせる町づくりを推進する上で、防犯

灯や街路灯を増やす事は重要だ。近隣自治体と比較してはどうかを伺う。

答 本町の設置数は3782基で近隣自治体に比べても数多くの防犯灯が設置されている状況だ。

問 今年度4月からRSウイルス母子免疫ワクチンの定期接種が開始され、本町でも予算に接種費用が計上されたが、周知方法を伺う。

答 こども家庭センターに母子健康手帳を取りに来られた際に厚労省のパンフレット等を手渡しをしている。



鎌北湖をもっと活気ある賑わいの観光地に



鎌北湖・滝ノ入方面はデマンド式で運行を！

住民の生命を守る交通安全対策を

答 町民の安全・安心を守るため極めて重要と認識している



荒木かおる

問 町の道路状況を見ると、歩道のラインや横断歩道、一時停止線等の道路標示や区画線が非常に薄くなっている箇所が数多く見受けられる。今後の対策は。

答 限られた予算の中で優先度の高いものから対応を行っている。今後も通学路と生活道路及び事故発生箇所を優先に引き直しを行う予定。横断歩道や停止線については所管する西入間警察署に要望する。

問 今年度で「通学路整備計画」の期間が終了するが、現在も表示や線が薄くなっている箇所が多く存在する。町はこの状

況をどのように考えているか。

答 次期「通学路整備計画」においては、現在道路標示が薄くなっている場所等について計画に盛り込み整備を進める。

問 町民から青切符制度について詳しく知らないという声を耳にする。多くの自治体が住民の交通安全対策と青切符制度の周知・徹底を促している。本町でも交通安全意識の向上につながる工夫と努力が必要ではないか。

答 先進自治体の事例を参考に機会をとらえ住民周知に努める。

問 町内に住む外国人が増加する中、ゴミ出し等、生活に関わ

る部分に対し取り組みを強化する必要があるが自治会や行政区から相談や要望はあるか。

答 言語や文化、生活習慣の相違で自治会のルールを把握できず区長からも相談が寄せられている。更なる相互理解を深め外国籍の方々が自治会活動に参加しやすい環境づくりを進める。

問 外国人の方はどういう方法で災害情報を受け取るのか。

答 現時点では全ての情報が日本語のみ。今後の課題。



「止まれ」薄くなった道路標示、早急に対策を！

増築予定小学校に音楽室理科室図工室がない

答 中学の特別教室と増築校舎の多目的スペースで授業



小野 浩

問 学校統廃合
資材価格高騰により、毛呂山小大規模改修工事の予算額12億5631万円はどうなるのか。

答 毛呂山小学校大規模改修工

事設計業務委託において、劣化状況調査を含む設計業務を進めている。今後の劣化状況調査の結果等により改修範囲等を決定し、実施設計を行うため現時点において予算額を答えることは困難である。

問 音楽室、理科室、図工室及び各準備室がないがどうするか。

答 既存の川角中学校校舎特別

教室及び増築校舎の多目的スペースで授業を行う。

問 もるバスのベンチ

数と今後の計画は。

答 11箇所14基。今年度新たに市場地区の山崎屋バス停横に1基設置。

デマンドタクシー

問 デマンドタクシーともるバスの並行実施の計画は。

答 重要な課題であると受け止めている。現段階では指定場所経由でのデマンド方式と、もるバスとの並行実施が現実的な検討内容である。

国指定史跡・鎌倉街道上道

問 『鎌倉街道上道』沿道の遺跡と史跡・毛呂山編（写真・文 岡野照彦）が発行された。この冊子の活用について伺う。

答 中学校の総合的な学習の時間等の教材として利用できる。本町の鎌倉街道の価値を知り、いつまでも維持して欲しいという願いが込められている。活動の成果を他者に還元する生涯学習の優れた事例である。



小学校にも理科室音楽室図工室あるのが当たり前なのに

やむを得ず旧車イベントの構想は存在していたのか

答 構想や協議はあった



下田 泰章

なかったため担当課長から十分な説明ができなかった。

問 仮に予算が可決されていたら旧車イベントは実施する予定だったのか。

答 事業が認められれば、さくらまつり事業の一環として実施されたと考えている。

問 この質問の論点は旧車イベントの是非を問うものではない。議会と執行部が建設的に議論す

るためには、予算に伴う事業効果などが明確に示される必要があると考えるが、町長の見解は。

答 旧車イベントはあくまで事業の手段の一つであり、町民のためになる事業として実施を検討していたものである。

消防団員の確保

問 現在の団員不足の状況は。

答 令和8年4月1日時点で、31人が不足している。

問 消防団OBを活用した新たな制度の導入は。

答 OBの経験は貴重な財産である一方、役割分担や安全管理などの課題もあるため、現時点

で導入予定はない。

町の観光計画とは

問 鎌北湖は町の観光振興の核と位置付けられている一方で、令和3年の豪雨による法面崩落で復旧に至っておらず、安全性やアクセス環境整備の重要性が求められる。核と位置付けるのであればまずは、早急な復旧が必要である。災害復旧等の予算措置が充当できないのか。

答 本件については、緊急自然災害防止対策事業債の対象となる可能性がある。

予算は、直接、住民の生活を左右し、その福祉のいかんを決するものであるから、編成に当たる町村長も、それを審議する議会も、あくまでも、住民全体の福祉を念頭に置いて考えるべきで、いやしくも一部の住民の利益のために奉仕するようなことがあってはならない。

議員必携 第12次改訂新版（学陽書房）より引用

中東情勢悪化による町への影響は

答 今年度の予算執行に影響する可能性がある



高橋 達夫

出る可能性が強いと推測する。大きな影響が発生した場合には補正予算での対応を検討する。

問 6月から電気代が上がると言われているが町の電気代、ガス代の契約先と契約内容は。

答 電気はコスモエネルギーリユニオンズと令和11年1月末日までの単価契約をしており契約期間は同一単価である。ガス代は単価契約しているが、今

のところ値上げの予定はない。

問 今年度の予算では大型の工事予算が計上されている。今後入札不調等が心配される事業等はあるか。

答 旭台地区雨水排水事業、町道整備事業、東武越生線55号路切改良工事等心配される。

問 工事等で入札不調の場合の町の対応は。

答 再入札の結果応札があり、価格オーバーの場合は最低業者と調整、応札がなかった場合は設計見直しや補正予算等による事業費増額等がある。

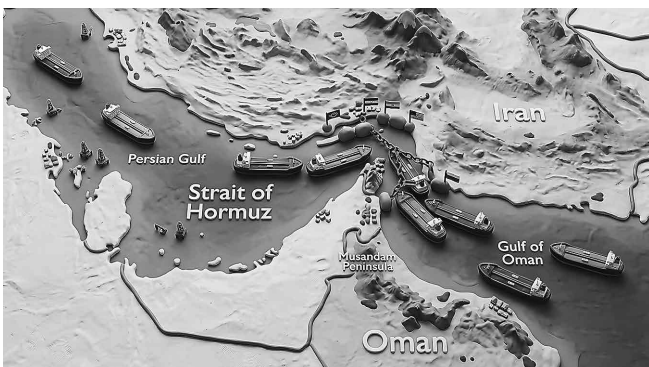
問 中東情勢悪化による町の税

取の影響は。

答 町内企業においても電気代、燃料代、輸送費、包装資材などの製造コストを直撃すると認識している。これにより企業業績が悪化し法人税や賃上げ見送りにより町民税の減収が予想される。

問 町内の個人事業者数と均等割別法人事業者数は。

答 個人事業者数はおよそ703、均等割別法人者数は大規模な9号法人から資本金1千万円以下の1号法人までの684法人である。



一刻も早い停戦が望まれる中東情勢

川角中一体型で15準備室・部屋が不足！

答 9年間見通し、対応する



岡野 勉

川角小、光山小が川角中敷地内となる一体型と隣接型は雲泥の差がある。一体型は大きなリスクだ。

問 2月16日の臨時議会で泉野小学校の廃校が決まった。なお、全体像が決まらない中で毛呂山小学校区先行実施は、平等な教育環境整備面からも問題だ。

答 大きなリスクはない。物価高騰は現在も続いており、学校施設の改修時期が遅れることで改修工費が膨らみ、財政負担が大きくなることが想定される。

問 一体型とは増設校舎で川角小、光山小のこと。隣接型とは今の校舎を大切に使うこと。現在の小学校には理科室、理科準備室、第1音楽室、第2音楽室、図工室、社会科資料室、教育相談室、更衣室、児童会室、調理室、コンピューター室、学習室、小学校用体育館、プールがある。何と15室だ。

答 現在、小学生が専用に使う部屋は特にないが9年間を見通した計画で充分に対応して参る。

問 学校編成計画の住民への説明会だが日程はどうなるのか、お聞きする。

答 住民保護者説明会だが総合教育会議を経て7月以降に行う予定。



小中統合は多面に無理がある

10年後の毛呂山をどの様に考え進めていくのか

答 身の丈に合った行財政運営に努める



佐藤 秀樹

認識している。

問 今後の財政の推移と照らし合わせ、やめる勇気も必要だと思いが如何か。

答 政策面で見直す必要があるが、当然に見直しを行う。

問 近年の物価高騰に対し、現在の政策をどのように考えているのか。

答 優先順位に基づく厳しい事業選択が更に求められるものと

問 今後も更に物価高騰が予想される中、新校舎を建てる案は強引ではないかと考える。大きな起債はいずれ今の子供達の負担になる。校舎より教材や教え

方に力を注ぐべきではないか。

答 子供達の安全を確保する為、大規模な老朽化対策が必要。

問 仮に改修工事の方が安ければその分、町費で塾の講師などと契約をし、授業のサポートなどを行ってもらう事や教材に使うなどにお金をかけた方が良くないか。

答 教員に出来る事、地域や民間に任せる所は常に精査している。これからの地域と教職と共に学校づくりを行っていききたい。

問 高齡化が進み、交通弱者、買い物弱者が増えているが町として具体的には何を検討しているのか。

答 AIを活用したデマンド型交通や、デジタルデバイドの解消を考えている。

問 様々な課題がある中で、今後おこりうるかもしれない市町村合併に向けて広域化を、しかもイニシアチブを持って進めないと更なる過疎化は免れないと思う。今こそ職員一丸となり対話をしながら政策を進めるべきと思うが如何か。

答 人事を所管する総務課を中心に各課が連携して、業務推進に努めてまいる。



スケジュールが変更となった川角中学校区

鎌北湖再生は観光事業の要

答 現在鋭意検討中である



澤田 巖

問 埼玉県発表の本町の観光入込客数は62市町村中43位の年間約48万人であり伸び悩んでいる。積極的に民間活力を導入して観光入込客数を増やすべきでは。

答 鎌北湖再生に向けた具体的な民間事業者との協議には至っていないが課内で様々なアイデアを出し合い民間活力の導入の可能性について情報収集と検討を進めているところである。

問 過去には春の桜、秋の紅葉のライトアップが好評を得ていたが復活させることは可能か。

答 過去の運営状況等詳細な調査が必要、運営に関する経費や安全管理体制・利用者のニーズ等協議を進めていく必要もあり観光協会等の関係各所と実施の可能性を検討していく。

問 鎌北湖周辺の一体的な観光計画において葛貫地区から鎌北湖へ至る沿道が近年魅力的な展開があるとの答弁があったが。

答 民間業者による飲食店や農産物加工品販売店、観光農園等の施設が出来ており観光地としての魅力が高まっている。

問 鎌北湖の再生は今後の本町観光事業の要となる。他の自治体で成功例を考察すると単に飲食店の設置だけでは無く、宮沢湖のようなジップラインなど体験型の施設導入も検討すべきであると考ええる。複数年に渡る長期的な計画が必要であると考えるが。

答 体験型施設等は民間事業者に問合せをしており、四季彩の丘にある展望台を利用して湖に降りていくジップライン等の設置は可能との事。展望台の周辺に要整備箇所があるため、第一にやるべきことであると認識している。鎌北湖のポテンシャルを最大に引き上げたい。



再生のポイントはアミューズメント化

ブラックホール型自治体からの脱却は！

答 若者世代に魅力あるまちづくりを目指す



堀江 快治

問 町は令和6年に人口戦略会議から、全国25の自治体が指摘されたブラックホール型自治体に指定されている。この不名誉な指摘から脱却することこそ、

持続可能なまちづくりに繋がるものと考えているが町の見解は。

答 若者世代の定住促進や子育て世代の経済的支援、子育て環境の整備・充実など、計画的に政策展開を実施していく。

問 国の合計特殊出生率と町の合計特殊出生率との乖離を抑制することが重要ではないか。

答 少子化対策の特効薬的なものは無いのが現状であり、町で

は県内でも群を抜いた子育て支援策を実施していると認識している。

問 超高齢社会への町の対応方針は。

答 より一層、地域包括ケアシステムの構築を図っていく。

問 高齢者が孤立しないために町はどうしていくべきか。

答 地域社会や地域コミュニティが高齢者の孤立防止に非常に大切なことであり、町行政として様々な取組みについて鋭意努力していく。

問 低迷している観光政策の今後は。

答 鎌北湖を施設整備面で強化していく。

問 もろやま創成舎

問 近年、創成舎は多くの問題が指摘されている。町が創成舎に支出した総額は。

答 国庫補助を含めて約7579万円支出している。

問 ビジネスコンテストの成果は。

答 撤退した事業もあるが、一定の効果があつたと認識。

問 撤退事業者に対する補助金支出についてはどう理解したらよいのか。

答 返還はないものと認識。



毛呂山町は変わるか！

